社告

福翁自傳

福澤先生は天保五年大阪に誕生、三歲のとき藩地豐前中津に歸り十四五歲にして始めて漢書を學び二十一歲長崎に行て洋學の門に入り次て大阪に行き又次で江戶に來り弱冠の時より老餘の今日に至るまで終始西洋文明の一主義を以て生涯を成したる人なり

其人の生涯は實に我國多事變化の日にして封建門閥の至靜より文明快活の新社會に移り先生亦其の新社會の組織に與りて力あるは世人の認むる所なり先生本年六十五歲既往を回顧すれば苦樂一ならず啻に一身の苦樂のみならず**其行路の實際を聞けば由て以て時勢の眞面目を窺ひ見るに足る可し**先生は之を子孫に告げ又知人朋友に語るを以て老餘の樂事と爲し去年來時に閑あれば之を**口述して速記せしめ又自から筆を執りて記憶中に往來するものを書綴り**漸く集めて一冊の書を成し福翁自傳と題して將さに出版せんとしたれども書中の記事隨て成れば又隨て記憶に洩れたるものを思出して殆んど際限なき次第なれば册子印刷は他日の事とし先づ之を**時事新報紙上に掲載す可し**とて取敢へず原稿の成りしものを取纏めて**七月初旬**より紙面の許す限り寫して以て讀者の淸覽に供す可し

明治三十一年六月十二日

時事新報記者誌

社説

平均政略の妄想

政黨の首領たる可き老政客の徒は在朝在野を論ぜず現行の選擧法を改正するか又は爵位を辭して自由の身と爲り自から議會に出でゝ黨員を糾合す可し勝算[illegible]ある可らず我輩の敢て勸告する所なれども在野の徒は姑く別として政府の棟梁たる伊藤總理の心事は如何ある可きやと云ふに辭爵の決心など到底思ひ寄らざることならん果して然らば今度の政黨運動も之を斷念するの外なかる可し今より斷じて[illegible]に徵するに在[illegible]の時代に際して攝政關白太政大臣某に向ひ朝廷の位階を辭し源平の武士輩と相對して勢力を爭ふ可しと勸告するものもあらんには果して其言に從ふ可きや否や當時の形勢を見れば藤家の一族は只門閥の餘光に依て朝廷の事を擅にするのみ國中の人心は決して服せざるのみか源平兩家の如き各地方に根據を固めて其勢侮る可らず何か騷亂にても起るときは兩家の力を藉て漸く討平する程の次第にして形勢一變の機は既に熟したれども藤氏の眼より見れば天下太平四海無事、武家の輩の如きは自から操縱駕御の術なきに非ず即ち平家の中に勢力を逞うするものあれば源家を延いて之を抑へ源家に背くものあるときは平家をして之を伐たしむるの政略にして双方の力を利用しながら其武家輩が京都に在勤するも其官位は甚だ低くして昇殿を許すか許さゞるの待遇に過ぎず恰も之を奴隷視して駕御の法を得たるものと爲し自から藤家の萬々歲を期したるをならん此時に當り何人が如何なる勸告を試みるも長袖者流の時勢に通ぜざる到底悔悟の望はある可らず遂に武人の爲めに倒されて墓なき最後を遂げたるは自業自得止むを得ざる次第なりと云ふ可し伊藤總理の如き今みそは位人臣を極めて至尊の御覺も殊に目出度きよし恰も全盛無比の地位に在れども本來を云へば素寒貧の一書生より出身したる者にして決して藤原の長袖者流と同一視す可きに非ず左れば一旦自から悟るときは斷然爵位を抛ち自から政黨の首領として打て出づるの決斷も敢て難きに非ざれども我輩が爰に他人の心を忖度して竊に測量するに或は邪推の嫌もあらんかなれども當人の地位に身を置て想像を運らすときは自から身を挺して民間黨に首領たるの勢を避け依然現在の態度を守りて超然たるが如く超然たらざるが如く陰然政府黨を操縱して反對黨に對せしめ恰も兩黨對立の上に位して自から全うするの工風なきに非ず即ち其工風とは平均政略にして蓋し總理の考に謂らく今の民黨なる進步、自由の兩黨が自から其黨を解き更に合して一團體を成し所謂憲政黨を組織して何百何千の黨員を網羅し得たりなど稱するも實際議院に列席す可き議員の數は百何十名に過ぎざる可し議場に絕對の多數を制する能はざるは事實に明なり左れば一方に政府黨を組織し百何十名の議員を得て之に當らしむるときは勢力恰も平均して双方共に自から逞うするを得ざる其趣は喩へば百斤の力に對するに百斤の力を以てすれば其力互に平均して零に歸するに異ならず政府は恰も其平均の上に立て所謂無所屬など稱する二三十名の議員を手に入るゝときは僅々の數にて多きを制し勞せずして功を收む可し是れぞ平均政略の想像し得て妙なる所にして近くは德川の封建組織も此平均政略を實にしたるの例として見る可きものなり即ち德川の所領は八百萬石と稱して其石高全國三分の一にも足らず若し國中の大小名が聯合して反對したらんには德川の獨力到底支ふるを得ざるは數に於て明白なれども實際に其大小名を駕御して一言半句の不平をも云はしめず飽くまでも威嚴を逞うして三百年の天下を維持したるは即ち平均政略の効能にして大は大と對し小は小と對して其勢力を平均せしめ全國の力を零にして其上に立ちたるものに外ならず實際の事實にして之を心の中に想像するときは益す〱其妙味を覺えざるを得ず故に總理が曾て自由黨と提携の考を懷きし時にも同黨の代議士が議會に半數以上の多數を占むるは決して喜ぶ所に非ず如何となれば斯る多數を占めて其勢力盛なるときは政府に向て要求する所も甚だ大にして之に處すること困難なればとて凡そ七八十名にして反對黨に對すれば粗ぼ相下らざるの數にてありながら政府と離れて孤立するときは自から不利の地に立たざるを得ざるの邊に止まることを希望したるならん即ち今の政黨に對するも凡そ此邊の意味にして朝野の兩黨を對立せしめ勢力平均の上に坐して巧に操縱の術を運らすの考ならんか我輩の敢て測量する所にして其考も決して無稽ならず想像の上にては恰も實際に行はれ得べきが如くなれども我輩の所見を以てすれば是れぞ席上の妄想にして當局者が未だ時勢切迫の眞相を解せざるが爲めに斯る妄想に誤らるゝものと認めざるを得ず目下の有樣を見れば既に短兵急接戰の時にして民間黨の如きは年來の感情行掛りを忘れて一體の團結を成し正々堂々政府の城下に迫らんとするの勢なりと云ふ地勢切迫間髮を容れずと云ふ可し是時に當り政府の覺悟果して如何、大言壯語勇氣を示して政府黨の組織を說くも中心に眞實の決斷あるに非ず只これを利用して勢力平均の上に立ち自から地位を維持せんとするが如き姑息の考ならんには以心傳心、早くも世間の看取する所と爲り折角奮發して大に運動するも恰も椽の下の力持にして太に力を現はすを得ず自から骨折損して單に主公の御都合を成すに過ぎずと悟りたらんには誰れか進んで政府黨の爲めに盡力するものあらんや今の政客輩は多年間の經驗に政界の辛酸を嘗め盡して此間の消息を解すること甚だ銳敏なれば他の甘言を聞て容易に其手に乘るものはある可らず當局者の心算果して誤算せざるや否や昨今聞く所に據れば政府黨の組織談も一頓挫を來して頗る不景氣の觀ありと云ふ或は此邊の事情よりして未だ發表せざるに早く既に化の皮を現はしたるものに非ざるか或は然らずして大に準備の魂膽を凝らし一擧大に運動するの覺悟にても實際當局者の考にして此邊の方略に外ならずとすれば我輩は其必敗を斷言して一點の疑を存せざるものなり

政府黨組織の頓挫

政府黨組織の計畫は次第に步を進めつゝありしに初め熱心に此擧を贊成したる實業家の中には將來永く一定の政黨員と進退を共にするの困難を察して漸く厭氣を催はすものありて折角の計畫も實行覺束なき有樣と爲りしと云ふ果して眞ならば誠に遺憾と云はざる可らず忽にして思ひ立ち又忽にして中止するが如き如何にも輕卒にして政府の信用を損するのみならず第一目前の困難を如何にして陵ぐ可きや在野黨は雌雄を一擧に決せんとて合同するほどの勢なれば若しも自然の成行に放任せんには次の議會には自から多數の議員を出すこととならん當局者は何を以て之に當らんとするか在野の政黨界は總て一色なり互に爭ふものなければ最早や例の操り策を行ふに由なし且つ既に合同の上は選擧場裡に於ても自から民黨の便利多かる可きが故に解散の聲も反對の氣焔を制するに足らずして政府はます〱難局に陷る可し或は斯る場合には颯々と辭職せんのみと云はんかなれども辭職は本來政治家の名譽に非ざるのみか今や外交は方に多事なり國中あらん限りの智慧を絞て事に當る可きの時に際して兎も角も經驗に富める老政客を去らしむるは國の利益に非ず且つ現內閣辭して政權を民黨に讓れば相應の政府を作るに相違なしと雖も民黨政府も到底久しきを持すること能はず程なく倒れたる後は又々現在の當局者が出づ可き順番と爲ることとならん其時に當て味方の政黨なければ施政の困難は猶ほ今日の如くなる可し政黨組織は免る可らざる義務にして着々步を進む可き筈なるに然るに今や頓挫して振はずと云ふ誠に遺憾至極なれども如何にしても出來ぬとならば致方なし此上は只民黨と合體の方針を取る可きのみ民黨は合同新に成て其鼻呼吸甚だ荒し形式ばかりの讓步にては容易に折合はざることとならんなれども藩閥長老の勢力も尙ほ侮る可らざるものありいよ〱死物狂ひと爲りて暴れ廻はれば民黨も一時は大に苦痛を感ず可きのみならず强ひて之を押倒し得たりとするも自から政權を握るには多少困難の事情もある可し此邊の消息は政客の解するに難からざる所にして且つ是れまで政黨を度外視したる無分別の老輩も政界の近狀に徵して漸く其侮る可らざるを悟り政府黨の組織を希望するまでに進步したることとなれば此際民黨の勢力を認めて相當に讓步するも苦情なかる可し官民の調和必ずしも難からず自から政黨を作ること能はずんば則ち既成の政黨に合す可きのみ目前の急を救ふの策は此外にある可らず斷じて進む能はず又退くを得ず空しく立往生するが如きは我輩の取らざる所なり

電（時事…

○英商・放資

香港…

清國…

海關…

鐵道…

二百萬…

約を結…

（時事…

○獨逸・

獨逸…

集合…

獨逸…

務を…

あら…

同嶋…

巨大…

せん…

伯林…

せり…

○サン・

木曜…

米國…

ユー…

港を…

間發…

數は…

數の…

めた…

○東京大…

當地の合…

りしが本…

の及び三…